

国連【世界水の日】記念・水未来会議 2019

主催：特定非営利活動法人日本水フォーラム
日時：2019年3月8日(金) 14:00～17:00(開場 13:30～)
会場：参議院議員会館 1F 講堂

SDGs の達成と、脱炭素社会の構築が、国際社会の目標に位置付けられ、時代を牽引する考え方は、劇的に変化しています。環境への取組みにより、複合する環境・経済・社会の諸課題の包括的な解決が期待されています。その実現のためには、全ての人々の参画による多様なパートナーシップが重要であり、新たなアプローチの創造と実践が求められています。

中でも、民間企業の影響力と、期待される役割は大きいことから、政治・行政・学界・市民社会の各セクターは、民間企業参画の重要性を理解し、連携を進めていかなければなりません。しかし、こうしたパラダイムの転換に社会全体が順応できているとは言い難い状況です。

このような現状認識から、「水未来会議 2019」では、昨年引き続き、SDGs 達成に向けた**民間企業の役割の重要性**と、**民間企業との連携・協働**方策を議論しました。

今回、企業が抱える様々な経営課題と SDGs はどう関連するのか、という点にも着目しました。なぜなら、企業は、従来型の社会貢献的な、或いはコストセンター的な理解に基づく「CSR 活動」を継続するのではなく、SDGs の取組みを事業化することが求められているからです。

企業において SDGs の取組みが事業化される、つまり全社的な事業計画や経営計画に SDGs が取り込まれるためには、その**取組み自体の持続性を担保する一定の収益化**が必要です。

また今後は、SDGs の取組みに、KPI (重要業績評価指標) を設定する必要があります。

これらのためには、SDGs 全体の構造をターゲットのレベルで理解し、ターゲット毎に定められている指標を把握した上で、現地の実状に即した事業計画を策定・実行していく必要があります。

SDGs のターゲットに注目してみると、水が、人間の生命と営みにとって、いかに大切で、根源的なものであるかが、浮かび上がってきます。ゴール6「水と衛生」のみならず、2「飢餓」、3「保健」、7「エネルギー」、11「都市」、14「海洋資源」、15「陸上資源」の、ターゲットにおいても、水関連の課題解決の目標が設定されています。

貧しい地域では、水汲みが女性や児童の仕事とされている、という現実問題があります。1「貧困」、4「教育」、5「ジェンダー」、12「生産・消費」、16「平和」なども、水関連の課題解決と不可分です。

このように水は、各分野に通底する課題であり、持続可能な社会の構築を目指す上で、水問題への取り組みは不可欠です。その際に重要となるのは、**水の分野と他の分野が連携を強化**することです。「水未来会議」は、その連携のハブとなることを目指し、今後も、持続可能な発展に向けた行動のヒントや、モデル・事例の探求に取組み、提案を続けて参ります。

以上